

「JENESYS2.0」

第二十一回中国教育関係者代表团

訪問日程 平成 28 年 11 月 15 日（火）～11 月 19 日（土）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した第二十一回中国教育関係者代表团（団長：王占起（オウ・センキ）中国日本友好協会 副秘書長）計 65 名が、11 月 15 日から 11 月 19 日までの 4 泊 5 日の日程で来日しました。本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の教育関係者との交流を始めとしたプログラムのほか、各種教育機関訪問・視察、伝統文化体験、地域見学等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

11 月 15 日（火）

成田空港着、オリエンテーション、歓迎会

11 月 16 日（水）

第 1 グループ：東京都立荒川工業高等学校訪問・交流

第 2 グループ：東京都立田柄高等学校訪問・交流

共通：皇居二重橋見学、文部科学省ブリーフ、商業施設視察

11 月 17 日（木）

京都へ移動、金閣寺、清水寺見学、和風温泉旅館で日本文化体験

11 月 18 日（金）

第 1 グループ：大阪市立市岡中学校訪問・交流

第 2 グループ：大阪市立敷津小学校訪問・交流

共通：大阪城見学、大阪府教育庁との懇談会、歓送報告会

11 月 19 日（土）

酒造見学、関西空港より帰国

3 写真



11月15日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長挨拶（東京都）



11月15日 歓迎会（東京都）



11月16日 東京都立荒川工業高等学校訪問・交流（東京都）



11月16日 東京都立田柄高等学校訪問・交流（東京都）



11月16日 文部科学省ブリーフ（東京都）



11月16日 文部科学省ブリーフ（東京都）



11月18日 大阪府立市岡中学校訪問・交流
(大阪府)



11月18日 大阪府立敷津小学校訪問・交流
(大阪府)



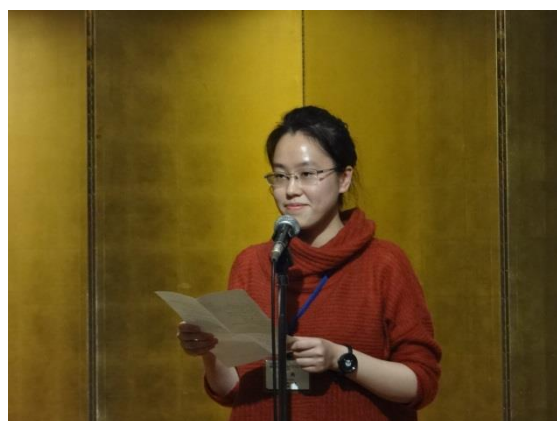
11月18日 大阪府教育庁との懇談会(大阪府)



11月19日 酒造見学(大阪府)



11月18日 歓送報告会 王占起団長による訪
日活動総括(大阪府)



11月18日 歓送報告会 団員による成果発表
(大阪府)

4 参加者の感想(抜粋)

○ この活動に参加する前、日本に抱いていたイメージで一番強かったものは漫画・ア

ニメと電子製品だった。参加後、日本と日本人に対する理解がより深まったと思う。街は清潔で秩序正しく、日本人は人との接し方が丁寧で、環境の保護や子どもの「生きる力」の育成などに力を入れている。

今回の交流では、東京都立荒川工業高等学校と大阪市立市岡中学校を訪問し、学校が、子どもたちの教育、子どもの興味や趣味を育むこと、子どもの生きる力を育てることに心を尽くして取り組んでいると感じた。同時に、教育者は子どもの個性を伸ばす教育を重視し、それぞれの学習状況を尊重し、力を伸ばそうと取り組んでいる。生徒たちは明るく活発で、向上心がある。また、修学旅行などの活動を通じて、生徒たちが自主的に社会活動へ参画していくよう教育している。

○ 活動に参加する前、日本の経済や文化について、発展しているという認識はおぼろげに持っていた。しかし、具体的にどう進んでいるのかは知らなかった。

活動に参加して、国民全体の素養が高いと痛感した。とりわけ、環境保護と資源の利用の面でそう感じた。また、日本人はとても礼儀正しい。それから、実践的な教育を行っていると感じた。

東京都立荒川工業高等学校では、知識習得のプロセスが系統的で管理されている点を学び、また、道德・マナー教育が永続的でより深い段階にあると感じた。

文部科学省を訪問し、教育は子どもの「生きる力」を育てるためのものであり、そのために子どもたちに豊富な基礎知識を学ばせ、健康な精神と身体を作るよう教えているのだと分かった。日本の文化と、実践的な授業を徹底して行っていることを実感し、この徹底ぶりが日本の教育を下支えしている強い原動力だと思った。

大阪府教育庁と大阪市立市岡中学校のプログラムで、理論が完全に、かつとても良い形で応用され、実践されていると感じた。

○ 日本人の環境保護に対する意識と、実際に日常生活で環境保護への取り組みがなされていたことが印象に残っている。日本の教育界では「生きる力」を育むことを提唱しており、この教育理念は私にまったく新しい考え方をもたらしてくれた。この旅に随行してくれた日本のスタッフは礼儀正しく、その細やかな仕事ぶりはとても気持ちの良いものだった。

今回の旅は短い日程だったが、行政部門による紹介と、学校の視察を通して、マクロ的な視点で日本の教育システムと教育目標を深く理解することができた。また、学校を訪問してみて、それらの教育目標がちゃんと実行されていると感じた。具体的には、日本は未来に向かって挑戦する人材の育成を提唱している。とりわけ、中国とは随分異なる「生きる力」を育てるという教育目標や、家庭科など働くための授業を開設していることは、私に気付きを与えてくれた。学校内で実施する特別活動は、学校ごとにそれぞれの特色を兼ね備えている。例えば、職業学校では製品の製造や設計能力の育成、生涯

に亘るキャリアプランの指導などを行っている。また、習熟度別授業の視察は、とても印象に残っている。

○ この短い訪問で、私は日本人の環境保護意識の強さに気が付いた。また、時間を遵守し、緻密で完璧に物事を進める仕事の仕方、更に教育目標としている子どもの生きる力と実践力を育むことに対して、日本人が高い関心を持っていたことが印象に残っている。

日本の街はどこへ行っても清潔で、公共の場所では至るところで節水の設備があった。また、ゴミの分別や水の再生利用からも、日本では政府から国民ひとりひとりにいたるまで、環境と資源を保護する意識が浸透していると感じた。

今回は日程が短くプログラムが多かったが、5日間全ての場面において、交通機関の時間の正確さや宿泊地のロケーション、団員それぞれの飲食のタブーまで、どんな些細な事もすべて周到に準備されていた。東京は車輛通行量が多く、道幅も狭いが、街を歩いている時、クラクションの音を聞くことはほとんどなかった。また、随行スタッフの礼儀正しい態度と温かさから、日本人は自分に厳しく、他人には礼儀正しいのだと感じた。

教育分野の訪問では、政府関係者のレクチャーを受け、学校の視察を行った。子どもの学習能力の向上だけでなく、社会の一員として生きる力の育成に力を入れていることが印象的だった。また、工業国の職業訓練校として工業高校では生産者の育成にも力を注いでいる。卒業後に生徒たちが順調に安定した生活基盤を築き、未来に挑戦し、様々な環境に対応していけるよう育てている。

○ 印象的だったのは、日本の美しい景色や美味しい料理、そして清潔な環境だ。教育の面で印象深かったのは、「実務」という2文字だ。最も重要なのは、形式上のイノベーションではない。様々な教授理論を用いれば、教育目標は実現できる。重要なのは、教育思想と行動を密に結び付けることだ。大阪市立市岡中学校で参観した国語の授業が印象に残っている。その授業はチームごとにディスカッションする形式で進められ、教室は活気に満ち、生徒は積極的に授業に参加していた。教室を観察している間、学習目標として掲げられていた「良好なパートナーシップに基づいて…」という状況を体感することができた。言葉は通じなくても、生徒たちのチームワークの良さが伝わってきた。家庭科の授業では、生徒の「生きる力」を育み、鍛える教育を行っている。この取り組みは中国も参考にしたい。これは終身教育の重要な一環で、社会に役立つ人間になるには、まず、自立した強い意志のある内面を育てなければならないということだ。また、自分の長所を見つける力も必要だ。必ずしも自分に適しているとは言えない目標を奪い合う必要はない。環境の整備については、国、社会、家庭、学校が足並みを揃えて取り組むべきで、しかるべき政策や法律を作るとともに、それを保護し、監督していか

なければならない。私や私の生徒たちは、中国人の生活環境、そして自然環境の保護のために、微力ながら力を尽くしていきたいと思う。

○ 今回の訪問でとても印象的だったことを以下に述べたい。帰国したら、身近な人々にも伝えたいと思う。

一、教育について。日本の教育は、生徒ひとりひとりの個性をとっても尊重していると感じた。例えば、学習の進路を生徒自身に選ばせるなど、個性を活かした成長を尊重している。また、学習に障がいのある生徒には支援の手を差し伸べる。外国人、障がい者、落ちこぼれなど、どんな子どもでも見捨てない。同時に、日本では一部の科目で能力別の教育も行っている。そうすることで大幅に子どもたちの学習効率をアップさせ、生徒の積極性を養っている。更に、子どもたちの生きる力の育成にも取り組んでおり、社会科、技術・家庭科を設置して生徒たちに様々な技術を身に付けさせている。また、自分で学びたいカリキュラムを選択できるという独創的な学習方法を取り入れたり、最先端科学技術を学べる学校を増設したりしている。日本の教育は、生徒たちが十分に学び、自分自身を高めるスペースを与えていると感じた。

二、国民の素養。日本人の素養は非常に高い。今回出会った生徒たちも教師や教育を重んじ、礼儀正しく活発で、自信に満ちていた。教師たちも真面目で謙虚だ。国民全体の素養が高い。それは、とりわけゴミの分別の仕方によく現れている。人に対しても友好的で、日本全体が清潔で、秩序が保たれ安定している。サービスも温かく誠意がこもっている。

三、経済について。日本の経済水準は中国よりも高い。国民の生活レベルも比較的高い。また、自然が美しく、独自の飲食文化を持っていることがとても印象に残っている。

○ 11月15日、私たちは成田空港に降り立った。清く、湿度を含んだ空気。美しく清潔な環境。温かく友好的な日本側スタッフたち。日本の第一印象は殊のほか良かった。

視察、訪問、交流で知り合った人々は、交流会の参加者だけでなく、学校の校長、先生、校内の生徒たちまで、皆とても親切で礼儀正しかった。彼らが「朋あり、遠方より来たる。亦た楽しからずや」「歲月人を待たず」という中国の古代文化について言及したとき、中国と日本は隣国であり、互いに深く影響を受けていると強く感じた。ともに学び、発展することが共通の願いだ。「学習指導要領」の解説や授業参観での、家庭科と科学技術の授業は、目に触れ耳にするもの全てが新鮮だった。家庭科の授業は英語と同じく小学校6年生から始まるが、英語が週に1コマなのに対して明らかに家庭科は1.6、1.7コマと授業回数が多く、日本では生徒の生活能力や生きる力、家庭という概念を教えることに重きを置いていると思った。授業中、生徒たちは真剣に参加し、フレキシブルに活動していた。裁縫の授業では、先生が教えたやり方で自分の服に空いた穴を繕っている生徒がおり、学んだことを活かすという、教育の成果が現れていた。

このほか、日本の美しい風景、とりわけ富士山のことは一生忘れないだろう。新幹線から少し見ただけだが、その姿はギリシャ神話の男神アポロンのように勇ましく、また、白いベールとロングスカートを身にまとった淑女のようでもあり、一生私の心に残るだろう。

○ 日本では人材育成が計画的に行われている。その上、生徒の能力に合わせた授業や、特徴ある専門学校の設置などを進め、各分野で強い専門性を発揮している。

一、訪れた学校の生徒たちは皆活発で、その行動からは積極性や楽観的な考え方、いきいきした一面が見て取れた。

二、日本の生徒は自立している。これは、小さな頃から家庭で教えられている「人に迷惑をかけてはいけない」という考え方と関係がある。

三、学校は生徒たちの進路の希望を尊重しており、そのことが彼らの自主学習の積極性に繋がっている。

○ 日本を訪れる前から、日本人は時間に正確だと知っていた。清潔で、規則を重んじる。実際にじっくり観察してみると、日本人は思っていた以上に温かく、何事にも真面目であると感じた。特に学校の先生方の勤労の精神には驚かされた。また、子どもに対しては、社会、家庭、学校、それぞれが働きかけて、ルールを守ることを教えている。

一、生徒たちの興味や個人の意志を尊重し、生徒の自主性に沿った指導を行い、実用的で有効的な教育を行っている。

二、能力別教育が行き届いている。生徒たちはそれぞれのレベルにあわせ、能力別に学習を進める。そうすることで生徒たちが興味を持続し、教師もまた、より照準のあった授業を行うことができるため、授業の効果がアップしている。

三、教育改革の狙いが非常に明確で、計画性も高い。10年に一度の調整で、制度や規則に基づき、広く周知し、計画に沿って段階を踏み、全面的に実施されていく。

○ 今回の訪問で最も印象深かったのは、日本人の素養の高さだ。まず、日常生活のふとしたところにも、伝統文化に対する彼らの尊敬と伝承の気持ちが見て取れる。例えば和服について述べると、中国の伝統である刺繍が和服づくりにおいて大事な働きをしていた。日本人の伝統文化に対する称賛の気持ちが表れていた。それに対して、中国は無形文化遺産の保護が不十分である。文化の伝承には、人々の支持が必要だ。このほか、小学校の視察で大阪市立敷津小学校を訪れた。どのクラスでも4人の大人が協力して教育を行っていた。彼らはボランティアだが、ボランティアの活用は、中国ではまだ行われていない。大阪府教育庁での懇談では、子どもたちの違いを重視する教育についてたっぷり語ってくれた。「生きる力」を育てる教育は、私たちに教育者が生徒を教える本質とは何かを考えさせてくれた。

○ 今回、日本を訪れることができ、光栄に思う。最も印象に残ったのは学校訪問だ。日本の学校は温かみがあり、リラックスできる雰囲気、実情に則している感じがした。子どもたちは自由に生き生きしており、学校での学びは彼らに喜びをもたらしているようだ。小学校の校長との交流で聞いた、日本の総合的な学習内容に興味を持った。日本のように、その国や地域の状況に合わせて作られたカリキュラムは、人に優しく実用的で、子どもたちが生きていく上で必要な内容だ。これは私たちも学ぶべき点だと思う。帰国したら、日本の教育理念を私の周りの教師たちにも伝えたい。再び日本で学ぶ機会があることを望んでいる。

○ 最も印象的だったこと：日本の小学生がとても温かく迎え入れてくれ、一言二言の簡単な中国語で交流することができた。日本の小学校教育は既に世界の水準に達している。入学式から卒業式までの6年間、運動会や社会活動、海外の提携校への訪問など、子どもたちが彩り豊かな学校生活を送っている様子を動画で見た。こうした活動によって、生徒たちは様々な側面から社会というものを経験する。生徒ひとりひとりに、才能を発揮する場を与えることができるのだ。生徒たちに儀式として節目を意識させ、彼ら自身の中にある自分の存在感や価値観を高めてやることで、社会に出て行く基礎を築いている。

帰国したら周りに伝えたいことは、日本の生徒たちの健康な心と体、団体意識。すべて私たちが学ぶべきだ。

- 一. 教育改革の計画性、執行力の強さ、オープンさ、自主性の強さ。
- 二. 能力別学習や「PDCA」(Plan、Do、Check、Act)サイクルの確立、計画性、緻密な執行力、構造的であること。生徒の生涯の発展と、健全な成長のための責任を担っている。
- 三. 日本の生徒たちは自信に満ち、活発で、積極性と向上心があり、来訪者と接するときも物怖じしない。
- 四. 日本人は互いの違いを尊重し、差別せず、平等に互いに信頼を寄せている。ひとりひとりが努力し、国と社会に積極的に貢献している。
- 五. 日本の教育は生徒の生きる力、職業能力の育成を重視しており、生徒たちがそれぞれ学習内容や進路、やりたい仕事を選択できる。
- 六. 日本人は友好的で温かい。また、勤勉で時間に正確で、周到で秩序を重んじる。計画は緻密に計算されており、実行力が高く、自らの原則と、強固な意志を持っている。